



## 2015年総合（看護）第4問

4 1から9の整数が1つずつ書かれた9枚のカードから1枚ずつ2回カードを取り出す。最初に取り出したカードを元に戻してから次のカードを取り出す場合を「戻す場合」といい、最初のカードを戻さずに次のカードを取り出す場合を「戻さない場合」ということにする。最初に取り出したカードに書かれている数を  $a$  とし、次に取り出したカードに書かれている数を  $b$  とする。

(1) 戻す場合、 $8 \leq a + b \leq 12$  となる確率は  $\frac{\text{チ}}{\text{ツ}}$  であり、戻さない場合、 $8 \leq a + b \leq 12$  となる確率は

$\frac{\text{テ}}{\text{ト}}$  である。

(2) 戻す場合、 $60 \leq ab \leq 70$  となる確率は  $\frac{\text{ナ}}{\text{ニ}}$  であり、戻さない場合、 $60 \leq ab \leq 70$  となる確率は

$\frac{\text{ヌ}}{\text{ネ}}$  である。

(3) 戻す場合、 $60 \leq ab + a + b \leq 70$  となる確率は  $\frac{\text{ノ}}{\text{ハ}}$  であり、戻さない場合、 $60 \leq ab + a + b \leq 70$

となる確率は  $\frac{\text{ヒ}}{\text{フ}}$  である。